

すべての氏子の皆様に感謝！感謝！感謝！

7年後に逢いましょう



先乗り 9人衆紹介

久保直章綱係長 (瀬澤)
植松清彦前針孔係長 (立沢)
小林 悟斧方係長 (高森)
久保田友彦後針孔係長 (瀬沢新田)
五味大輔追掛係長 (乙事)
阿部栄華小槌子係長 (信濃境)
柴田和幸綱副係長 (富里)
五味敦雄後針孔副係長 (乙事)
平出俊憲綱副係長 (田端)

コロナ禍の影響で、建御柱の
先乗りは9人の正副係長に制
限して行われました。

7年後に期待 次回は任せた!!

東三地区では、11の係が一丸となって取り組んだ今回の御柱祭。その中には、係員として初めて参加された大勢のみなさんがいました。先輩や同僚から叱咤激励されながら臨んだ本祭。コロナ禍で前例のない様々な制限のある中、協力一致、すべての参加者が心ひとつになる素晴らしさを実感し、真剣な眼差しでそれぞれの係での技術を習得していました。

そこで、各係の初参加のみなさん（各係代表1名）から、御柱祭を経験しての談話をいただきました。

心震えた！天下の大祭

木遣り係

牛山みどり（主沢）

初めて木遣りで参加した今回の御柱祭。

私の鳴いた木遣りであの大きな柱が動いた瞬間、心が震えました。

氏子の皆さんのよいさーの声で綱がひかれ、前四の柱が力強く前に進んでいく光景を私は一生忘れません。

頑張れよーと声をかけてくださった皆さん、仲間に入れて下さった木遣り保存会の皆さん、支えてくれた家族、友人、本当にありがとうございました！

また7年後に！

あれから数えて14年…

喇叭係

伊藤里桜（桜ヶ丘）

昔、子供木遣り隊で鳴くと喇叭の音が力強く響き心奪われ惚れた瞬間必ず喇叭係に入隊し活躍すると誓った。

今年に入り雪の中、御柱仮置場に行くとき聖域に神様が鎮座しており、身体中が神聖な空気に包まれた。二礼三拍手一礼をし、心を新たにしました。

喇叭は祖父が形見に、肩掛け紐は祖母の正絹帯締めを、お守り袋は御柱参加が希望だった母が願いを込めて編んでくれ、家族の熱い想いを身に纏い皆を背負っての参加だった。

喇叭曲作曲当時「御柱は木遣りをもって動くものであり、喇叭で動く



ものではない」と言われた歴史をお聞きし、当時奮起し御苦労された方々の壮大な恩恵を受け、この時代に活躍させて頂けたのです。

古く長く未来永続である御柱の歴史の一部に成り、諏訪人として最善な瞬間を東三地区の皆様と体感させて頂けた事は一生の宝であり誇りです。

御柱とは、家族を中心に地域へと協力一致の輪が広がり、人が育ち、固い絆で結ばれ生きていく事そのものだと感じた。皆様が必要として頂き、未来を担う子供達に憧れて貰えるよう精進して参ります！

技術継承と心構え

斧方係

名取和磨（乙事）

伝統ある諏訪大社御柱大祭に、斧方係としてご神木に携わる機会を授かり、深く感謝いたしております。

ます。

安全を最優先にし、時間制約の中で円滑な木遣り、冠落としての技術継承と心構えを、担当御頭郷総代、先輩斧方係の皆様に指導頂き、学ばせて頂きました。

御柱祭は地域、氏子の皆様の絆を強める素晴らしい大祭と実感させて頂きました。

東三地区の皆様のご健康をお祈りしつつ、お礼申し上げます。

全力を尽くして

綱係

三井光秀（乙事）

今回、初めて御柱の綱係として参加しました。

今回はコロナ禍もあり、御柱祭開催は大変難しい状況にありましたが、世間の動向の判断、感染対策も行い御柱祭は開催されました。一本の柱をみなさんが合わせ、



それぞれの持ち場では全力を尽くし一丸となり、無事終了することが出来ました。

今後この御柱を後世に継承し、前任者達の知恵や工夫を引き継ぎ、また現代の技術を取り入れながら安全を期し、年々改良を加えより良いものへと変わっていくと思います。

安全を期し、年々改良を加えより良いものへと変わっていくと思います。

華

前針孔梃子係

植松 丈（主沢）

御柱に参加するのは今回3回目ですが、本格的に関わるのは初めてでした。

土日は針孔作り。同じ地区にしながら名前が分からない人がほと



んどでした。でも、作業する中で名前や役割を覚え絆が深まりました。皆さんほんとに優しくて縄の縛り方、針孔を作る中で気をつけ

ることや想い、そんなものを教え
てもらいながら楽しく準備がで
きました。

本祭がはじまり、里曳きの曳行
がはじまったときは鳥肌が立ちま
した。色んな地区の人みんなが本
気になってやるお祭り。すごく高
揚した気分になったのを覚えてい
ます。山出しもできたならあと悔
しい思いもしました。

今回の御柱ができたのは、関わ
った人それぞれの想いによって実
現したものだと感じました。

また、7年後には多くの人が参
加して活気あるお祭りになるよう
にと願っています。よいさー！



初めての御柱祭

後針孔梃子係

平出雄大（葛窪）

御柱祭に本格的に参加するのは
今回が初めてでした。

針孔造りや練習では、なにもわ

からない自分に、先輩方はたくさ
んのアドバイスをくださいました。

また、一緒に作業していく中で、
御柱に対する想いも知ることがで
きました。

里曳きでは、難所も難なく乗り
越えていく東三地区の凄さを目の
当たりにして感動しました。

沢山の貴重な経験をさせていた
だき、本当にありがとうございました。

次回へ繋げる

小梃子係

小林勝也（高森）

今回初めて小梃子係として参加
させていただきました。

コロナ禍という特異な状況の中
での御柱祭で、小梃子係の全てを
経験することはできなかったのだ
ですが、難所を乗り越えた時には係
長・副係長と拳を突き合つて達成
感を分かち合つことができたのは
良い思い出です。

一方、貴重な役回りを与えてい
ただきましたが、十分に役目を果
たすことができず反省しています。
これら貴重な経験を、伝統の継
承、今回の御柱祭に繋げていき
たいです。

コロナ禍での里曳き

追掛綱係

橋田正則（信濃境）

今回は追い掛けとして初参加さ
せて頂きました。

コロナ禍での里曳きと言うこと
で色々制限がある中、不安や緊
張で大変でしたが周りの方々に支
えられ楽しい御柱でした。

追い掛けという事もあり、後ろ
から見る柱はとても素敵で、見
に来ている人達の歓声や驚きの声
が耳に入り嬉しくなりました。

喜びと楽しさを実感

祭典係

小池真弓（乙事）

今回初めて祭典係として参加し
ました。

今まで、女性は曳き子以外では
参加できないかと思っていました
が、女性だからこそ出来ることを活
かして、こうやって係員として御
柱祭に参加できることに喜びと楽し



さを感じました。

祭典係で炎天下の中、立て続け
にダンスを踊ったことは良き思い出
ですし、女性の皆さんと一緒に
必死で作った「とらばら」ちゃん
を可愛いと言つて頂いたり、いい
アングルで「〇〇」に映して頂いた
りしたときは嬉しかったです。

新人眞道

警備係

眞道喬弘（富里）

今回初めて警備係という形で御
柱祭に参加させていただきました。
御柱曳行に携わる皆様の警備も
しつつ、自分自身も周辺で迫力
のあるお祭りの雰囲気を楽しませ
ていただきました。

様々な規制のあるコロナ禍での
開催ではありましたが、受け継が
れた技術と皆様のご協力により、



安全な曳行ができて本当に良かった
と思います。

ご協力ありがとうございました。

移住者としての御柱

広報記録係

鈴木 慶（信濃境）

東京より、家族とともに信濃境
に移住してきて、もうすぐ三年に
なります。

移住してきてすぐコロナ禍にな
ってしまったため、地域のお祭り
や集まりに参加できず、触れ合い
もままならない感じでしたが、御
柱祭により、地域の人々が一つに
結束し、熱い想い、祈りに触れる
ことができました。

新参者の私自身が、すこしでも
御柱祭というものを肌身で体感で
きたこと、とても誇りにおもいま
す。

幹事長から御礼のご挨拶

感謝と御礼

幹事長

小池秀澄（主沢）

令和四年壬寅歳諏訪大社式年造
営御柱大祭

前宮四之御柱を無事、建御名方
神の眠る丘、諏訪大社前宮境内に
曳き付け、建立することが出来ま
した。これもひとえに東三地区氏
子の皆様のご理解と協力を頂き
ました事に、衷心より御礼申し上

げます。

更にはコロナ禍で参加に心配さ
れる中、係員の後押しをして頂き
ましたご家族の皆様にも御礼と感
謝を申し上げます。ありがとうございました。

組織をお預かりして約1年、コ
ロナ禍で千二百年続く本祭が行わ
れるか、神事や祭事をどのように
今後へ伝えていくかを心配した毎
日でした。

しかし、木造りや綱
縋り、見事な曳行。そ
して、建て御柱に「感
謝・感動・繋ぐ」の姿
を感じました。

新しい取り組みや厳
しい感染対策にもご理
解を頂いた係員の皆さ
ん、そして小職な私を
支えて頂きました御頭
郷総代の方々にも感謝
を致します。

また、コロナ禍でも
曳行にご協力を頂きま
した氏子の方々にも感
謝いたします。

東三地区氏子会の皆
様、準備から前宮四之
御柱奉納まで大変ご苦
勞様でした。

本当にありがとうございました。
本当にありがとうございました。

正副幹事長、御頭郷総代、事務局のみなさん
本当にお疲れさまでした

編集後記

今回の御柱祭から正式な係
として「広報記録係」が発足
しました。

10人の係員で昨年12月に活
動を開始し、写真や動画の撮
影、ホームページやおんばし
ら通信の作成と今までにない
活動で、あつという間に半年
が過ぎました。

東三地区氏子会では、「おん
ばしら通信」を月2回のペー
スで定期発行し、氏子会帯
に配布してきました。

東三地区が担当した前宮四
之御柱を無事に奉納すること
ができ、この通信も第10号の
今回が最終となります。

令和四壬寅歳御柱大祭 前宮四之御柱
「記録写真集」編集中
2冊1組500円 8月上旬発刊予定

広報記録係では、記録写真集を編集しています。
概要は2冊1組（1冊128ページ）で、前編は
本祭に向けての準備、山出し、里曳き準備までを、
後編は里曳き、建御柱、係ごとや地区別の集合写真
で編集作業を進めています。

おんばしら通信第9号で7月上旬の発刊予定と
お知らせしましたが、5万枚を超える写真を編集す
るため相当の時間が必要となります。鋭意努力をし
ておりますが、発刊予定を1ヶ月遅らせ8月上旬を
目指していますので、ご理解をお願いいたします。

頒布価格は2冊1組500円で、注文と配布、徴
収等は、各区（集落組合）を通して取りまとめるこ
とで現在調整しています。

なお、今回ご寄付を頂いた方には御礼記念品とし
て配布させていただきます。

令和4年御柱祭
東三地区氏子会（本郷・落合・境）
<http://r4h3.www2.jp>



写真等留意

東三地区氏子会のウェブサイトやおんばしら通信
に掲載している集合写真等にマスクをしていないも
のがありますが、新型コロナウイルス感染拡大防止
対策に十分な配慮をしながら、撮影時のみ一時的に
マスクを外しています。

ご協力、本当にありがとうございました